

令和七年度香川県県民ホール舞台芸術鑑賞事業

第二回

公益財団法人松平公益会百周年記念



贊岐葵会

大阪能楽養成会研究発表会

能
狂言
卷絹

醉薑

はじかみ

令和7年 8月4日(月)

13時開演(12時30分開場)

15時45分終演(予定)

レクザムホール・小ホール
(香川県県民ホール)

入場無料

チケットはありません。
直接、会場にお越しください。

(定員約800席に達した場合、入場をお断りすることがありますので余裕を持ってご来場ください。)



【本公演は、公益財団法人松平公益会の百周年記念事業として、能楽界の次代を担う若き能楽師の育成を助ける一方、第一線で活躍する指導者らも招き、世界最古の舞台芸術である能楽鑑賞の機会を提供するものです。来年は京都能楽養成会を招聘し、大阪・京都隔年にて実施します。研修生たちに温かいご支援をお願いします。】

主催: 公益財団法人松平公益会、香川県 協力: 香川県能楽会 事業実施者: あなぶき文化振興コンソーシアム代表企業 穴吹エンタープライズ株式会社

第一回 講岐葵会（大阪能楽養成会研究発表会）

能 卷絹

天皇の命を受け、都から熊野本宮（和歌山県）へ絹の反物を運んでいた男（ツレ）が途中、梅の香に心ひかれ、和歌を詠み天神様に手向けます。寄り道で遅れた男は、臣下（ワキ）に叱られ、縛られます。そこへ天神様が乗り移った巫女（シテ）が現れ、和歌の手向けを喜び、男の縛りを解きます。巫女は必ず神にも届く和歌の素晴らしさを語り、臣下のすすめで神樂を舞ううちに、より神がかりとなります。まもなく正気に戻り、「卷絹」の能は終わります。

後半の狂乱とやがて正気に戻るシテの舞、謡と囃子の盛り上がりをお楽しみみに。

狂言 酢薑

酢売りと薑（はじかみ）売りが出会ったことから始まるお話で、互いの商売の由緒や系図をめぐつての言い争い。「ことば遊び」が聴きどころ。酢売りの「す」、薑売りの生姜の辛さを愛てる「から」の応酬に聴き耳を立て、洒落合戦をお楽しみください。さてその結末は…。

養成会とは

能楽の後継者を養成する組織。1954（昭和29）年に松平頼寿伯爵邸内の染井能楽堂を教場として発足しました。今日、第一線に立つ能楽師の多くはこの養成会を卒業し活躍中です。研修生たちは、能楽師として生きていく覚悟をし、研鑽に励んでいます。

錦木 国栖

仕舞【金春流】

地謡

金春 穂高

*金春 飛翔
*金春 嘉織

15分休憩

地謡

後見

笛

小鼓

太鼓

笛

巫女

都の男

ツレ

臣下

アイ

臣下の下人

シテ

梅若雄一郎

稻本 幹太

喜多 雅人

久田 杏海

上吉川 徹

貞光 智宣

横山奈帆子

山本 寿弥

春日奈帆子

山本 寿弥

◆番組 ◆（＊は研修生）
能【観世流】

卷絹

＊梅若雄一郎

＊稲本 幹太

＊喜多 雅人

＊久田 杏海

＊上吉川 徹

＊貞光 智宣

＊横山奈帆子

＊山本 寿弥

＊春日奈帆子

仕舞【観世流】

羽衣 キリ

＊長山 芽生

鶴亀

＊上田 嶺貴

＊田中 誠士

＊笠田 祐樹

＊善竹 隆央

＊上吉川 徹

＊小西 玲央

＊大槻 文藏

＊上野 朝彦

＊山田 薫

＊山田 朝彦

＊山田 朝彦